

BUDŌ

# NEWS

## 今月のニュース

第 20 回記念  
世界相撲選手権大会

第 51 回和道会  
全国空手道競技大会



平成 27 年度全国警察柔道・剣道選手権大会



# 第20回記念世界相撲選手権大会

第11回世界女子相撲選手権大会

第13回世界ジュニア相撲選手権大会・第5回世界ジュニア女子相撲選手権大会



団体戦・3位決定戦・先鋒戦 村田(左)がポーランドのルトを攻める

世界相撲選手権大会

日本勢、個人戦軽量級

重量級・無差別級で金メダル

## 世界相撲選手権大会

日本は、個人戦軽量級、重量級、無差別級で優勝を果たし、中量級、団体戦では3位に入賞した。

### ■個人戦軽量級

優勝 中村友哉なかもと ゆうや (金沢学院大)

2位 スティリアン・ジョージフ (ブルガリア)

3位 バルティヤティフ (ロシア)

3位 ロザム (ポーランド)

3位 アイロン (ポーランド)

9年ぶりの日本開催となった第20回記念世界相撲選手権大会と第11回世界女子相撲選手権大会が8月30日、9年前と同じ会場の大阪・堺市大浜公園相撲場において、世界29カ国・地域から163名の選手が参加して行われた。前日の29日には、同会場において、第13回世界ジュニア相撲選手権大会・第5回世界ジュニア女子相撲選手権大会が世界20カ国・地域から91名が参加し開催された。各大会では、個人戦軽量級、中量級、重量級、無差別級、団体戦の5部門で覇を競った。



個人戦軽量級・決勝②＝中村が寄り切り、優勝



個人戦軽量級・決勝①＝中村（左）が相手の左膝裏を捕らえる

■個人戦中量級  
 優勝Ⅱアサマス・カシフ(ロシア)  
 2位Ⅱミチャル・ルト(ポーランド)  
 3位Ⅱジョジ・メシユビルデシユビル  
 (ジョージア)  
 3位Ⅱ野口清之(長崎)  
 前回優勝の野口清之は、準決勝でミチャル・ルトに寄り切りで敗れた。敗者復活戦で、野口はミコラ・コシユコフ(ウクライナ)の胸を右肩で押し続け、寄り倒して入賞。  
 決勝は、アサマス・カシフがミチャル・ルトを寄り倒して優勝した。

決勝まで順調に勝ち進んだ前回覇者の中村友哉。決勝はブルガリアのジョージフと対戦。立合い後、中村は、低姿勢から勢いよく突進。左手で相手のまわしをしつかり取り、右手で相手の左膝裏を捕らえ、そのまま寄り切つてジョージフを破り、2連覇を果たした。  
 ◎軽量級優勝Ⅱ中村友哉選手  
 「同じ体格の選手との対戦なので言い訳はできないと思いましたが。今日は自分の持ち味も出し切り、身体も動きましたね。何をされても、動じない落ち着いた相撲がとれました」

個人戦中量級・3位決定戦＝野口(左)



■個人戦重量級  
 優勝Ⅱ小柳亮太(東京農業大)  
 2位Ⅱビャンブジャブ・ウラムバヤル(モンゴル)  
 3位Ⅱルイ・アパレシド・デサジュニア(ブラジル)  
 3位Ⅱアブタンディル・サトサヴァゼ(ジョージア)  
 初出場の小柳亮太は、決勝でビャンブジャブ・ウラムバヤルと対戦。立合い後、小柳は、突っ張りでウラムバヤルを土俵際に追い込み、押し出す。見事、初優勝に輝いた。  
 ◎重量級優勝Ⅱ小柳亮太選手  
 「最高の形で終わることができました。11月の全日本選手権大会でも、優勝を目指し、頑張りたいです」

個人戦重量級・決勝②＝小柳が押し出して優勝



個人戦重量級・決勝①＝小柳(右)が突っ張りを繰り返す





個人戦無差別級・決勝①＝右が黒川



個人戦無差別級・決勝②＝左四つから、黒川の上手投げが決まる

■個人戦無差別級

優勝Ⅱ黒川宗一郎(アイシン軽金属)

2位Ⅱホツサム・ファシ・オマーミスバー

(エジプト)

3位Ⅱジャーシエック・ピアセック

(ポーランド)

3位Ⅱトルボルド・バーサンスレン

(モンゴル)

黒川宗一郎は、決勝でホツサム・ファシ・オマーミスバーと対決。すぐに黒川は、諸差しになり、優位に立つ。土俵際まで追い込むが、オマーミスバーが右手で黒川を咽喉輪攻めし、形勢逆転。黒川は土俵際に追い込まれる。さらに黒川のまわしを取り、押し出しを図るオマーミスバー。しかし、黒川が左四つの体勢から左足を軸に回転。勢いそのまま、右手で上手投げを決め、勝利。初優勝を飾った。

◎無差別級優勝Ⅱ黒川宗一郎選手

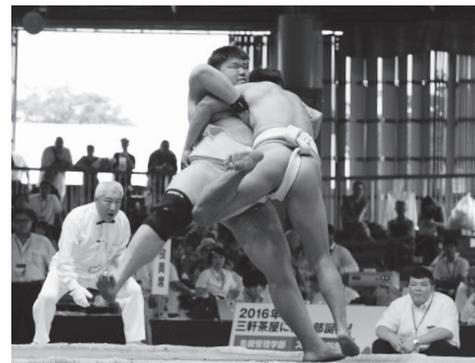
「決勝でのオマーミスバー選手は、力の強い選手なので、まわしを取られないように心掛け、最後は得意の上手投げを決めることができました。無差別での優勝は、世界一であるということだと思います。非常に嬉しいです」



団体戦・決勝戦・中堅戦



団体戦・3位決定戦・先鋒戦＝村田(左)の押し出し



団体戦・準決勝・中堅戦＝黒川(左)が敗退

■団体戦

優勝Ⅱロシア

2位Ⅱモンゴル

3位Ⅱジョージア、日本

大会4連覇を狙う日本は、準決勝で前回3位のモンゴルと対戦。

先鋒戦、村田亮(東洋大)は諸差しになろうとするが、それをいなされ、ジャンプジャブ・ウラムバヤルの突き落しに敗れた。続く中堅戦、黒川宗一郎がウスフバル・オチルフーを追い込むが、相手の外掛けに掛かり、そのまま上手投げでまさかの敗戦。この時点で日本の敗退が決定、大会連覇は3で止まった。大將戦では、小柳亮太が勝利したものの、モンゴルに1対2で敗れた。

なんとしても入賞を果たしたい日本、3位決定戦はポーランドと対戦した。先鋒は村田がミチャル・ルトを押し出し、中堅戦は黒川がジャーシエック・ピアセックに不戦勝、大將戦は小柳がセバステイアン・アウスを押し出して3対0で勝利。日本は3位となった。

決勝は、昨年度準優勝のロシアと日本を破ったモンゴルが対戦。2対1でロシアが優勝した。

## 世界女子相撲選手権大会

日本は、団体戦、個人戦重量級で2位となった。軽量級において3位に入賞した。

### ■個人戦軽量級

優勝Ⅱダリア・イブラギモア(ロシア)  
2位Ⅱアリナ・ポイコワ(ウクライナ)  
3位Ⅱモニカ・スキバ(ポーランド)  
3位Ⅱ山中未久(京都)



個人戦軽量級・3位決定戦＝山中(左)が競り勝った

昨年準優勝の山中未久は、準決勝においてダリア・イブラギモアと対決。山中はイブラギモアに切り返され、敗れた。

雪辱を果すべく挑んだ3位決定戦、山中は前回3位のルシアナ・モンテゴメリ・ワタナベ(ブラジル)に追い込まれたところを、浴びせ倒して逆転勝ち、3位入賞を果たした。

決勝は、山中を破ったイブラギモアがアリナ・ポイコワから足取りを決めて優勝した。



個人戦軽量級・決勝＝イブラギモア(右)が優勝



個人戦軽量級・表彰。左が山中



個人戦中量級・決勝＝マキシメンコ(左)が勝利

### ■個人戦中量級

優勝Ⅱマリナ・マキシメンコ(ウクライナ)  
2位Ⅱマリヤ・オーヤシユコヴァ(ブルガリア)  
3位Ⅱムンクセトセグ・オトゴン(モンゴル)  
3位Ⅱアンナ・アレクサンドロヴァ(ロシア)

日本からは兼平志織(東京)が初出場。一回戦で、兼平はチアフアン・チェン(台湾)に寄り切られ、初戦負け。敗者復活戦でもムンクセトセグ・オトゴンに上手投げで敗れ、この階級で、日本は入賞を逃した。

決勝は、マリナ・マキシメンコがマリヤ・オーヤシユコヴァを押し出し、優勝となった。



場内全景



個人戦重量級・決勝＝キシドルジ（右）が優勝



個人戦重量級・3位決定戦＝稲葉（右）の突き出しが決まり、3位入賞を果す



個人戦無差別級・決勝



団体戦・決勝・中堅戦＝稲葉（左）の右足が先に土につく

■個人戦重量級

優勝Ⅱサンジマー・キシドルジ

(モンゴル)

2位Ⅱマリア・ダボイアン(ウクライナ)

3位Ⅱ稲葉映美(京都)

3位Ⅱヴィパット・ヴィトティライサン

(タイ)

体重差で日本人選手が不利となる重量級。初戦となる2回戦で日本の稲葉映美は、マリア・ダボイアンに寄り切られ、決勝進出を逃した。

入賞を果たしたい稲葉は、敗者復活戦で3位決定戦まで勝ち進んだ。アンナキラウディア・ゴンドソウサ(ブラジル)に突き出しを決め、見事3位に入賞した。

決勝は、サンジマー・キシドルジがマリア・ダボイアンをはたき込み、優勝した。

■個人戦無差別級

優勝Ⅱアンナ・ジガロワ(ロシア)

(ウクライナ)

2位Ⅱイヴァンナ・ベレゾスカ

3位Ⅱビバン・サカニ(ハンガリー)

3位Ⅱゾジャーガル・ダヴァードルジ

(モンゴル)

前回3位の上田幸佳(鳥取)は、準決勝でアンナ・ジガロワに上手投げで無念の敗退。

3位決定戦でも、ゾジャーガル・ダヴァードルジに寄り倒され、3位入賞を逃した。

決勝、上田を破った大柄なアンナ・ジガロワはイヴァンナ・ベレゾスカに諸差しを許すものの、反撃して逆に諸差しになる。そのまま寄り倒し、優勝を決めた。

■団体戦

優勝Ⅱウクライナ

2位Ⅱ日本

3位Ⅱロシア、モンゴル

前回3位の日本は、準決勝で強豪モンゴルに2対1で勝利し、決勝戦まで勝ち上った。

決勝戦では、昨年準優勝のウクライナと対戦。

先鋒戦、兼平志織はダボイアン・マリアに押し出され敗退。窮地に追い込まれた日本、中堅戦では稲葉映美がマリナーナ・マキシメンコと激しい突っ張りの応酬を展開。最後は稲葉がおしくも突き落とされ、敗退。大将戦でも、上田幸佳はイヴァンナ・ベレゾスカに浴びせ倒しを決められ、0対3でウクライナが勝利。日本は準優勝となった。

## 世界ジュニア相撲選手権大会

日本は、団体戦、個人戦中量級、重量級、無差別級で優勝に輝き、軽量級では3位入賞の優秀な成績を残した。



個人戦軽量級・3位決定戦＝深野(手前)が勝利



個人戦軽量級・決勝＝バック(奥)が優勝

### ■個人戦軽量級

優勝Ⅱバーサン・バック(ロシア)  
2位Ⅱジャーコック・ダノシユファ

(ポーランド)

3位Ⅱワシヤ・ダイウリ(ウクライナ)

3位Ⅱ深野良太(響高)

深野良太は準決勝でバーサン・バックと対決。深野はバックに寄り倒

され、決勝進出を逃した。3位決定戦では、深野の巧みな上手投げがレ

ディオソ・カリモフ(ハンガリー)に決まり、深野は3位に食込んだ。

決勝では、深野に勝利したバックが、ジャーコック・ダノシユファを

上手投げで破り、優勝。

### ■個人戦中量級

優勝Ⅱ秋葉 拓(酒田光陵高)

2位Ⅱファーター・アブーロツク

(エジプト)

3位Ⅱアンドリ・ガツレタウク(ウクライナ)

3位Ⅱニコラス・シスワセ(ジョージア)

安定した相撲で勝ち進んだ秋葉拓は、決勝戦でファーター・アブー

ロツクと対決。立合い後、秋葉は突

つ張りを繰り返し、体格差を感じさせず、アブーロツクを圧倒。そのまま押し出し、初優勝に輝いた。

### ◎中量級優勝Ⅱ秋葉拓選手

「初めての国際試合でしたので、自分の相撲ができればいい、今までの成果を発揮できればいいと思い、挑みました。自分は、引き落しに弱いので、それに注意しながら、試合を進められたことが勝因ですね」

### ■個人戦重量級

優勝Ⅱ鎌谷将且(埼玉栄高)

2位Ⅱシャミリ・ゴゴシユリ

(ジョージア)

3位Ⅱアマサナ・アマトフシ(モンゴル)

3位Ⅱスイー・ソコロフスキー

(ウクライナ)

鎌谷将且は、大柄な選手がひしめく中、体格差を感じさせない相撲で

決勝に進出。決勝では、シャミリ・ゴゴシユリと対戦となった。ゴゴシ

ユリが内掛けを仕掛けるものの、鎌谷は重心を低くして、掛けさせな

い。鎌谷は相手の重心を上げ、右四つから寄り切り、初優勝を果たした。

### ◎重量級優勝Ⅱ鎌谷将且選手

「初めての国際試合ですので、自分の相撲を取ろうと思ひ、取り切れませんでした。今後プロを目指して、頑張つて稽古に励みたいです」

個人戦中量級・決勝＝秋葉(左)が押し出で優勝



個人戦重量級・決勝＝鎌谷(右)が寄り切りで優勝





個人戦無差別級・決勝＝城山（上）が掬い投げで優勝



団体戦・決勝・中堅戦＝城山（左）は押し出しで勝利



団体戦・決勝・大将戦＝鎌谷（左）の押し倒し

■個人戦無差別級

優勝Ⅱ城山<sup>しろやま</sup>聖羅（金沢市立工業高）

2位Ⅱアデルラーマ・エーベッド  
（エジプト）

3位Ⅱマンダッグ・バラランダワ  
（モンゴル）

3位Ⅱトーマス・ブラウン（エストニア）

決勝まで進んだ城山聖羅は、巨漢アデルラーマ・エーベッドと戦った。エーベッドが右四つの体勢から土俵際まで城山を攻め、押し出しを図る。それを堪えた城山が引きながら右手で掬い投げを決め、勝利。優勝の座を手に入れた。

◎無差別級優勝Ⅱ城山聖羅選手

「決勝のエーベッド選手は、かなり

力が強いと聞いていたので警戒してました。しかし、なんとか勝つことができました。普段の稽古の成果ですかね」

■団体戦

優勝Ⅱ日本

2位Ⅱブラジル

3位Ⅱモンゴル、エジプト

日本は、先鋒に川上竜虎（文徳高）、中堅大将にはそれぞれ城山、鎌谷、2人の個人戦金メダル選手を布陣し、試合に挑んだ。日本、初戦のウクライナ戦は3対0、続くエジプト戦も3対0で勝ち上がり、決勝では、強豪モンゴルを準決勝で破つ

たブラジルと激突した。

先鋒戦、立ち合い後、川上はサトウ・ユキ・ラモスのまわしを捕らえて押し倒し、勝ち星を上げた。中堅戦、城山はサント・ウィッター・エスピリトを一方的に押し出し、日本の勝利が決まった。大将戦、鎌谷は、サトウ・イサム・ラモスの激しい突き出しにも動じず、ラモスを追いつめ、押し倒した。日本は見事、3対0で優勝に輝いた。

◎団体戦優勝Ⅱ中堅・城山聖羅選手

「決勝では、先鋒の川上君の勢いをそのままに繋ぐことができました。大将戦も勝利しましたし、最高の形で終わることができました」

団体戦表彰



## 世界ジュニア女子相撲選手権大会

日本は、団体戦、個人重量級、無差別級で優勝し、軽量級、中量級は2位の好成績を収めた。

### ■個人戦軽量級

- 優勝Ⅱカリナ・コレスニック  
(ウクライナ)
- 2位Ⅱ千覚原七奈(京都)
- 3位Ⅱニギナ・アコービローバ(ロシア)
- 3位Ⅱイシンコロ・ムンセレフ  
(モンゴル)

決勝では、千覚原七奈が、カリナ・コレスニックと戦った。立ち合



個人戦軽量級・決勝=攻める千覚原(左)

い後、千覚原はまわしを取られ、土俵際まで追いつめられた。逃れようとする千覚原だが、寄り倒され、準優勝となった。

### ■個人戦中量級

- 優勝Ⅱマグダ・スカラノスカ  
(ポーランド)
- 2位Ⅱ古賀真里菜(佐賀)
- 3位Ⅱスヴェトラナ・ペトロヴァ(ロシア)
- 3位Ⅱドゴガン・バーサ(モンゴル)

決勝戦、古賀真里菜はマグダ・スカラノスカを土俵際まで追いつめ、押し出そうとするが、スカラノスカにいなされ、下手投げに敗れた。古賀は善戦むなく惜敗。



個人戦中量級・決勝=古賀(左)は下手投げに敗れる

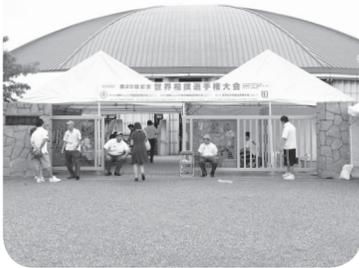
### ■個人戦重量級

- 優勝Ⅱ今日和(青森)
- 2位Ⅱマクラダイナ・ラードン  
(ポーランド)
- 3位Ⅱケースニヤダニア(ロシア)
- 3位Ⅱサラルイサ・ゴンダシルバ  
(ブラジル)

前年度優勝者の今日和は大会連覇をかけ、マクラダイナ・ラードンとの決勝戦に挑んだ。立合い後、今がラードンの抵抗をもとせせず、瞬く間に押し出しを決め、2連覇を達成した。

### ◎重量級優勝Ⅱ今日和選手

「2連覇できてよかったです。少し悪い部分もありましたが、自分の相撲、前に出る相撲がとれました。今年でジュニアは終わりですが、シニアでも優勝したいです」



会場となった大浜公園相撲場

### 屋外稽古場



個人戦重量級・決勝=今日和(左)の力強い押し出し





個人戦無差別級・決勝＝  
鳥井本（左）の押し出しが決まる

◎無差別級優勝＝鳥井本聖菜選手

「大会直前までの合宿で、自分の欠点を補うため、徹底的に練習していました。ですので自信はありました。結果が出てよかったです」

■団体戦

優勝＝日本

2位＝ロシア

3位＝モンゴル、エストニア

日本、初戦にあたる2回戦はウクライナに不戦勝、準決勝はエストニアに2対1で勝利し、決勝はロシアとの対戦となった。

先鋒戦、日本は重量級優勝の今日

和。立合い後、スヴェトラナ・ペトロヴァの左脇を抑え、ペトロヴァの体勢を崩す、そのまま寄り切って勝ち星を上げた。中堅戦は、無差別級優勝の鳥井本聖菜。突っ張りの激しい応酬後、鳥井本は右手でアナスタ

ティア・フランスニクのまわしを取って寄り切り、勝ちを収めた。大将戦では、紅谷樹里（富山）がケース

ニヤ・ダニリナに右四つから寄り倒され、敗退。日本は2対1で勝利し、優勝を果たした。

優位に。何も出来ないパーキルをそのまま押し出し、優勝を決めた。

■個人戦無差別級

優勝＝鳥井本聖菜（青森）

2位＝カイ・パーキル（エストニア）

3位＝ウーディントフシジャガ・ブン（モンゴル）

3位＝アナスタティア・フランスニク（ロシア）

前回3位の鳥井本聖菜、「同郷の今に続け」と言わんばかりに気合いを入れ、決勝を迎えた。猛烈な突っ張りの攻防後、鳥井本はカイ・パーキルより一瞬早く諸差しになり、優位に。何も出来ないパーキルをそのまま押し出し、優勝を決めた。



団体戦・決勝・先鋒戦＝攻める今（左）



団体戦・決勝・中堅戦＝鳥井本（右）が寄り切り

団体戦表彰



# 大相撲ジャーナル

2015年10月号

## 「平成27年秋場所展望号」

### 「2大特集」

#### ★夏巡業レポート

8月3日から東海・北陸・東北・北海道など17の都市で開催された夏巡業に密着し、相撲を愛する土地の人々と力士の触れ合い、力士の素顔に迫ります。

#### ★「スー女対談」

大相撲人気を支える、いわゆる「相撲女子」。最近では「スー女」(すうじょ)という言葉が相撲界の新しい言葉になりつつあります。そこで、誰もが認める3人の「スー女」(能町みね子さん、山根ちかさん、ちかみどりさん)にご登場いただき、全幕内力士に熱いメッセージを送ります。

#### ▼ 相撲界のレジェンド、旭天鵬引退。

23年間の土俵人生を振り返ります。

#### ▼ 【新企画】デゴイチ黒姫山の「秋場所ここが見所」 「相撲界に直言・苦言」

#### ▼ 角界ジャーナル「私の巡業改革」

1つのテーマを3名の筆者が様々な角度から掘り下げます。

#### ▼ 「F1琴錦」のズバツと解説

ケガと向き合い懸命に戦う大関琴奨菊をご紹介します。

#### ▼ 「夏巡業」レポート

夏巡業の魅力、15ページにわたって美しいカラー写真とレポートでたっぷりとお伝えします。

#### ▼ 「新・素顔総見」

横綱を目指す超逸材、照ノ富士の魅力に迫ります。

#### ▼ 秋場所観戦ガイド

粋な「染め抜き着物」姿の力士写真と各力士の詳細なデータを、年6場所の成績とともにご紹介。42名の幕内力士について3名の「スー女」に対談していただきます。

#### ▼ アマチュア相撲花盛り

わんぱく相撲、中学生相撲、高校総体。アマチュアの3大全国大会をレポート。

#### ▼ 「発気よいレイコのSUMO SNS」

底抜けに明るいキャラクターで人気急上昇中の「天風(あまかぜ)」をご紹介します。

#### ▼ 「やぐらだいこの詩」

力士の知られざる苦労話や相撲にかける秘めた情熱を相撲漫画家の琴剣さんが温かく描きます。

#### ▼ 木村恵之助の「相撲字道場」

番付表の制作を担当している三役格行司、木村恵之助さんが丁寧にアドバイスをします。

#### ▼ 土俵の美「軍配」

軍配に記された文字。奥深い言葉が大相撲の歴史を紡ぎます。

#### ▼ 大相撲風物史「夏休みと大相撲」

昔懐かしい数々の名力士。少年少女時代のヒーローが蘇ります。



# 平成27年度全国警察柔道・剣道選手権大会

柔道男子無差別

江藤大暁（大阪）が初優勝

剣道男子

土谷有輝（大阪）が初出場、初優勝

平成27年度全国警察柔道・剣道選手権大会（主催：警察庁）が9月11日、日本武道館で開催された。

柔道は男子6階級で争われ、無差別は江藤大暁（福岡）、100kg級は辻本拓記（兵庫）、90kg級は地崎亮祐（千葉）、81kg級は山下諒輔（静岡）、73kg級は金岡真司（警視庁）、66kg級は小寺将史（警視庁）が優勝した。女子は、今年から52kg級が新設され、3階級で実施。63kg超級は市橋寿々華（大阪）が3連覇、63kg級は塚越加奈（警視庁）が2連覇、52kg級は垣田恵利（兵庫）が初優勝した。

剣道男子決勝は、初出場の土谷有輝（大阪）が野村洋介（神奈川）を破って初優勝。剣道女子は、本大会で過去3度の優勝経験を誇る山本真理子（大阪）が通算4度目の優勝を飾った。



柔道男子無差別決勝＝江藤（右）対川北



柔道女子63kg超級決勝＝市橋（左）対橋口

大会には、皇宮警察本部、警視庁、各道府県警察の選抜選手が出場。試

合は、柔道が男子5分、女子4分の

一本勝負、時間内に勝敗が決しない

場合は、ゴールデンスコア方式によ

る時間無制限の延長戦が行われた。

剣道では時間無制限の一本勝負で行

われ、所属する各都道府県警察の威

信をかけた試合が展開された。

## ■柔道

### ◇男子

無差別の決勝は江藤大暁（福岡）と川北大祐（大阪）の対戦。体格で勝る江藤は組手で優位に立ち、釣り手を上手く使って川北の動きを封じる。試合は川北の反則負けで、江藤が優勝を決めた。

### ◎優勝：江藤大暁選手（福岡）

「嬉しいの一言ですね。きつかったのは、昨年優勝の檜崎選手との準決勝です。何回も対戦して手の内が分かっているので互いに攻めきれないところがありました。ゴールデンスコアでなんとかポイントをとって勝ったので良かったと思います。今後一戦一戦頑張ります」

◇女子

63 kg超級で大会2連覇中の市橋は順当に決勝に駒を進める。相手は同じ大阪の橋口ななみ。昨年と同じ顔合わせとなり、市橋が指導の差で橋口の挑戦を退け、3連覇を達成。

◎優勝Ⅱ市橋寿々華選手（大阪）  
「優勝できて嬉しかったですが、課題が残る大会だったと思います。全ての試合を山場だと思って戦いました。講道館杯があるので、それに向けてもっともつと練習したいです」

■剣道

◇男子

内村良一、正代正博、網代忠勝、ら有力選手が序盤で姿を消す波乱の展開。その中を勝ち上がってきたのは大会初出場の新鋭、土谷有輝（大阪）と昨年5位の野村洋介（神奈川）。どちらが勝っても初優勝の試合は開始約30秒、土谷が面を決めて嬉しい初出場、初優勝を果たした。

◎優勝Ⅱ土谷有輝選手（大阪）  
「優勝の実感は全然湧かないです。」



剣道男子決勝＝土谷（右）対野村



剣道女子決勝＝山本（右）対竹村。攻める山本

決めた面は狙っていたわけではなく、自然と体が動きました。普段練習していたことが出せました。優勝しましたが、これからも挑戦者の気持ちを忘れずに頑張りたいです」

◇女子

過去3回の優勝経験のある山本真

理子（大阪）は2年ぶりに決勝の舞台へ。決勝の相手は竹村奈緒美（岐阜）。試合は山本が竹村に付け入る隙を与えず、鏝<sup>つぼせ</sup>迫り合いからの引き面で勝負を決め、4度目の優勝を果たした。

【大会結果】

■柔道

◇男子

- ▽無差別①江藤大暁（福岡）②川北大祐（大阪）③檜崎誠（佐賀）、白本周太郎（神奈川）
- ▽100 kg級①辻本拓記（兵庫）②内健治郎（鹿児島）③村上拓（愛知）、井上貴博（佐賀）
- ▽90 kg級①地崎亮祐（千葉）②佐藤和幸（愛知）③五十嵐遼介（新潟）、山本弘樹（皇宮）
- ▽81 kg級①山下諒輔（静岡）②住谷仁志（大阪）③形部安彦（香川）、中村龍平（愛知）
- ▽73 kg級①金岡真司（警視庁）②大畑佑介（宮崎）③中村剛教（大阪）、野手健志（和歌山）
- ▽66 kg級①小寺将史（警視庁）②江藤康太（熊本）③吉田惟人（神

奈川）、大木恭介（静岡）

◇女子

- ▽63 kg超級①市橋寿々華（大阪）②橋口ななみ（大阪）③瀬川直莉（警視庁）、濱砂香澄（宮崎）
- ▽63 kg級①塚越加奈（警視庁）②村瀬由樹（静岡）③三輪愛子（警視庁）、大月琴美（新潟）
- ▽52 kg級①垣田恵利（兵庫）②高塚夢（滋賀）③海老祐加（秋田）、田村明日実（北海道）

■剣道

- ◇男子Ⅱ①土谷有輝（大阪）②野村洋介（神奈川）③亀井隼人（神奈川）、松井祐一（京都）
- ◇女子Ⅱ①山本真理子（大阪）②竹村奈緒美（岐阜）③柴田結（警視庁）、田山秋恵（大阪）

# 第51回和道会全国空手道競技大会

組手団体・一般男子の部

## 東京大学拳法会 A が優勝

第51回和道会全国空手道競技大会は、8月29日（浦安市運動公園総合体育館）、30日（日本武道館）の2日間にわたって開催された。大会には、小学1年生からシニアまでが出場し、組手と形の全41部門にわたって熱戦が繰り広げられた。



団体組手一般男子の部・決勝副将戦＝東京大学拳法会 A ・岡本（右）対岡山支部・長畑



決勝次鋒戦＝東京大学拳法会 A ・西村（右）対岡山支部・仁科



決勝先鋒戦＝東京大学拳法会 A ・広川（右）対岡山支部・岡崎



決勝中堅戦＝東京大学拳法会 A ・柴山（右）対岡山支部・岡田

### 《組手団体戦》

#### ◆一般男子の部

12チームが出場。前回優勝の名空会は1回戦で岡山支部に敗れた。決勝には、前回準優勝の東京大学拳法会 A と岡山支部が勝ち進んだ。決勝戦、東京大学拳法会 A が先鋒戦で8-0、次鋒戦を4-2で岡山支部を降してリードする。中堅戦は互いに一進一退の攻防を見せ、4-

4で引分け。勝負の行方は副将戦へ持ち越された。

副将戦は東京大学拳法会A・岡本対岡山支部・長畑。岡本が上段突きで先制すると、負けじと長畑も上段逆突きでポイントを返す。終盤、岡本がワンツーカーから上段突きを決める。その後、両者に上段突きで旗があがる場面もあったが、時間切れとなり3―2で試合終了。東京大学拳法会Aが優勝を手にした。

#### ◎優勝Ⅱ東京大学拳法会A・監督兼次鋒 西村洋輝選手

「3年間準優勝どまりだったので、

優勝できて本当に嬉しいです。決勝の中堅戦、相手は高校の後輩で強いことはわかっていました。彼を相手に引分けにできたことが勝因です」

#### ◆一般女子の部

17チームが出場。決勝は4連覇を狙う立教と浜松修学舎高校の対戦となった。立教は、危なげない試合展開で先鋒、次鋒戦ともに勝利し、4連覇を果たした。

#### ◆大学生男子の部

11チームが出場。決勝戦は、明治

と前回明治の3連覇を阻んで優勝した立教との対戦。先鋒戦、立教・染谷が試合終盤に放った上段突きを決め、7―6で勝利。反撃に出た明治は次鋒戦で山田が1―0で勝利、続く中堅戦では中野が8―3で完勝。

#### ◆都道府県対抗

8チームが出場。決勝は、埼玉県と前回準優勝の千葉県との対戦となり、埼玉県が優勝を決めた。

#### ◎優勝Ⅱ明治・佐々木誠之介監督

「非常に苦しい試合の連続でしたが、幸い運が味方してくれました。とにかく良かったということだけで

す。ここに来るまでにいろいろと苦労がありました。これから燃え尽き症候群をどうやってコントロールするか苦慮しそうです」

#### 《組手個人戦》

#### ◆一般男子の部

59名が出場。決勝には児玉侑也(は



団体組手一般女子の部・決勝中堅戦＝立教・山浦(左)対浜松修学舎高校・健石



団体組手大学生男子の部・決勝副将戦＝明治・清水(右)対立教・浅井



個人組手一般女子の部・決勝＝雄飛会・内田(右)対立教・脇坂

さま」と前回準優勝者の関場一弘を破った岡本健太（東京大学拳法会）が勝ち進み、6―2で児玉が優勝に輝いた。

◆一般女子の部

33名が出場。決勝には、内田千奈美（雄飛会）と脇坂佳美（立教大学）が勝ち進んだ。

結果は、内田が勝利を収め、嬉しい初優勝となった。

◎優勝Ⅱ雄飛会・内田千奈美選手

「全国大会での優勝は初めてだったのでとても嬉しいです。後半の立教戦は、道場生の私が毎日稽古している大学生に勝てるか不安でしたが、自分の力をすべて出し切ることができました。またこの日本武道館で優勝できるように頑張ります」

《形個人戦》

◆一般男子の部

29名が出場。決勝は前回準優勝の伊藤祥太（福井）と古橋卓也（名空会）の対戦となった。伊藤はチントウ、古橋はクーシヤンクーを演武。判定の結果、3―2で伊藤が再び首

位に返り咲いた。

◆一般女子の部

24名が出場。決勝は児玉百奈美（茂原）と稲垣葵（東海大）の対戦。児玉はワンシユウ、稲垣はクーシヤンクーを披露。結果は、旗が5本とも児玉に上がり、児玉が優勝した。



形個人戦一般女子の部・優勝＝  
児玉百奈美（ワンシユウ）  
写真提供：全日本空手道連盟



形個人戦一般男子の部・優勝＝  
伊藤祥太（チントウ）  
写真提供：全日本空手道連盟



形個人戦少年男子の部・優勝Ⅱ  
清水宗一郎（クーシヤンクー）



組手個人戦少年女子の部・決勝＝  
谷津倉史音（右）対鈴木沙奈



組手個人戦少年男子の部・決勝＝  
野口和真（左）対山田龍太郎



組手個人戦小学6年男子の部・決勝  
前田頼斗(左) 対鈴木麗斗



組手個人戦小学6年女子の部・決勝  
小澤七海(右) 対寺澤紗良



組手個人戦小学4年男子の部・決勝  
木津志優(右) 対渡井大喜

〔大会結果〕 ※優勝のみ

《組手団体戦》

▽都道府県対抗Ⅱ埼玉県▽一般男子  
Ⅱ東京大学拳法会A▽大学生男子Ⅱ  
明治大学▽一般女子Ⅱ立教大学▽少  
年男子Ⅱ東洋大学付属牛久高校

《組手個人戦》

▽一般男子有段Ⅱ児玉侑也(はさま)  
▽大学生男子有段Ⅱ清水一步(明治  
大学)▽一般男子有級Ⅱ浅野想(東  
京大学)▽一般女子有段Ⅱ内田千奈  
美(雄飛会)▽一般女子有級Ⅱ城井  
典子(東京大学)▽シニア男子50歳  
以上Ⅱ藤本秀樹(神岡道場)▽シニ  
ア男子40歳以上Ⅱ藤森大二郎(杉浦  
錬成塾本部)▽シニア女子40歳以上  
Ⅱ斉藤師保(一道塾)▽少年男子Ⅱ

野口和真(東洋大学付属牛久高校)  
▽少年女子Ⅱ谷津倉史音(瑞空塾至  
誠)▽中学男子Ⅱ幡野克弥(瑞空塾  
至誠)▽中学女子Ⅱ南保空花(明空  
義塾札幌)▽小学6年男子Ⅱ前田頼  
斗(東京空手倶楽部)▽小学6年女  
子Ⅱ小澤七海(杉浦錬成塾本部)▽  
小学5年男子Ⅱ谷口隼大(明空義塾  
札幌)▽小学5年女子Ⅱ安達水優(拳  
誠塾)▽小学4年男子Ⅱ木津志優(越  
谷修道館)▽小学4年女子Ⅱ水谷空  
来(育英館武道場)▽小学3年男女  
Ⅱ渡部健(美濃)▽小学2年男女Ⅱ  
長尾高良(美濃)▽小学1年男女Ⅱ  
小森八一(美濃)

《形個人戦》

▽一般男子有段Ⅱ伊藤祥太(福井)

▽一般男子有級Ⅱ田邊雄一(昇政塾)  
▽一般女子有段Ⅱ児玉百奈美(茂  
原)▽一般女子有級Ⅱ大橋愛(昇政  
塾)▽シニア男子40歳以上Ⅱ沖本貫  
志(岩国)▽シニア女子40歳以上Ⅱ  
石井恵(日立茂原)▽少年男子Ⅱ清  
水宗一郎(名空会研修センター)▽  
少年女子Ⅱ田口精華(札幌西)▽中  
学男子Ⅱ舟田葵(津)▽中学女子Ⅱ  
松下優里(俊和会)▽小学6年男女  
Ⅱ菊池ひかる(水風会名東)▽小学  
5年男女Ⅱ岩城沙那(津)▽小学4  
年男女Ⅱ岩田峻弥(北方)▽小学3  
年男女Ⅱ水野光琉(名空会豊田)▽  
小学2年男女Ⅱ刑部直人(名空会研  
修センター)▽小学1年男女Ⅱ木村  
翼佐(越谷修道館)



組手個人戦小学5年女子の部・決勝  
安達水優(左) 対矢吹晴菜



組手個人戦中学生男子の部・決勝  
幡野克弥(左) 対秋間樹大



組手個人戦大学生男子の部・決勝  
清水一步(右) 対横井智明